# 大茅地区　地域づくり懇談会　　議事録

**１　日　時**　平成２７年１０月９日（金）　１９：００～２０：１５

**２　会　場**　大茅地区公民館

**３　出席者**　地元出席者　　１５名

市側出席者　　１６名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、田中中核市推進監、田中企画推進部長、久野地域振興監、綱田都市整備部次長、高橋秘書課長

＜国府町総合支所＞安本支所長、山本副支所長（司会）、加藤市民福祉課長、前田産業建設課長

＜事務局＞馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

**４　中核市移行についての説明**

（中核市推進監）※チラシに基づき説明

**５　人口ビジョン・創生総合戦略（概要）についての説明**

（企画推進部長）※チラシに基づき説明

**６　地域の重要課題について**

１　道路の整備について

＜地域課題＞

国府地域への観光客誘致のため、

①主要地方道岩美八東線（県道３７号線）の整備

ア）岩美町小田～大坂間の改良（勾配、曲線半径の改良）：大型観光バスが運行できるよう要望してほしい。

本線は、緊急輸送道路ネットワーク計画で第２次緊急輸送道路となっている。

イ）国道９号線岩美町新井に「雨滝・殿ダム方面」の看板や観光案内板を設置してほしい。

②主要地方道鳥取国府岩美線の整備

ウ）十王峠附近の早期整備を引き続き要望してほしい。

エ）国道９号線岩美町塩谷ならびに県道院内馬場線との交差部に「大型車通行不可」の看板設置を要望してほしい。

③市道雨滝１号線の改良と雨滝駐車場整備

・事業を推進し、早期に完了していただきたい。

＜担当部局の所見等＞

①主要地方道岩美八東線（県道３７号線）の整備

【都市整備部】

ア）岩美町小田～大坂間の改良について

道路管理者である鳥取県に確認したところ下記のとおり回答がありました。

（鳥取県回答）

現地は２車線改良済でありますが、バスが旋回するのに必要な局部的な改良については、道路の利用状況をみながら、現地を確認の上、必要に応じて検討します。

イ）国道９号岩美町新井への案内標識の設置

「雨滝・殿ダム方面」の案内標識の設置については、以前から鳥取市内への案内標識設置についてもご要望いただいており、現在、国道および殿ダム管理者である国土交通省ならびに鳥取県と本市において案内標識設置箇所等の検討・協議を行っているところです。

引き続き、案内標識の設置に向けて、関係機関と協議を行ってまいります。

（都市整備部次長）

岩美町小田から大坂の間は、落差もあり、ヘアピンカーブが４、５か所連続しています。

鳥取県に要望をお伝えしたところ、この道路は２車線道路に改良整備済みのため、ヘアピンカーブ等の局部的な改良については、今後、大型バス等の利用状況等を見ながら、必要に応じて検討していきたいとのことでした。

なお、殿ダムの整備を契機に、現在、「殿ダム周辺の水源地域ビジョン」として殿ダム周辺の環境整備を行っていますが、その委員会の中で、地元の委員さんからは看板の必要性について以前からご要望いただいています。それからすでに２年ほど経過していると思いますが、県の道路標識適正化委員会にのせていこうということで、現在、殿ダムの管理者等と連携を図りながら、国、県、市で継続して協議を進めている状況です。具体的には、国道９号線の兵庫方面から鳥取方面の道路標識の中に、「国府方面」、もしくは「雨滝方面」といった表示ができないか検討しているところです。

＜担当部局の所見等＞

【経済観光部】

イ）国道９号岩美町新井への観光案内板の設置

観光案内板の設置については、鳥取県東部・兵庫県北部との広域観光の取り組みをより一層進めているところであり、例えば道の駅きなんせ岩美での雨滝方面のルート案内を含む観光情報発信なども含めて、県東部１市４町で構成する「鳥取・因幡観光ネットワーク協議会」で検討したいと考えます。

（都市整備部次長）

現在鳥取市は、鳥取県東部や兵庫県北部の香美町、新温泉町などと一緒に、広域観光の取り組みを進めています。例えば、道の駅きなんせ岩美は岩美町が設置された駅ですが、こういった所への案内看板等の設置について、県東部１市４町で構成する「鳥取・因幡観光ネットワーク協議会」の中で取り上げ、設置する方向で前向きに検討していきたいと考えます。

（地元意見）

先日、道の駅きなんせ岩美に初めて行きました。道の駅に大きな看板があります。しかし､看板には岩美町のことしか書いてありません｡県道３７号線や岩美町小田に抜ける道、木原から雨滝に抜ける道など、雨滝までの道は描いてあるが､「県道３７号線」という表示も「国府町雨滝」という表示もありません。岩美町と協議して､「県道３７号線」や「雨滝」の地名等を入れてもらえたらありがたいです。

（深澤市長）

「地方創生」ということで、今後はさまざまな分野の人と周辺の自治体同士が一緒になって地域づくりをしていく時代です。実際に、地方創生の取り組みとしてまずは観光ネットワークに取り組もうと、鳥取市と周辺４町、兵庫県北但馬の香美町、新温泉町が一緒になって、鳥取・因幡観光ネットワーク協議会ということで、折々に集まって話をしているところです。

具体的に岩美町にお願いしなければならない事柄もあると思いますが、ネットワーク協議会等の場でも十分に検討させていただきたいと思います。

観光商品の造成やネットワークについてなど、今こそ複数の地方自治体が力を合わせて進めていく時期にありますので、しっかり取り組んでいきたいと思います。

②主要地方道鳥取国府岩美線の整備

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

ア）十王峠付近の整備について

道路管理者である鳥取県に現在の進捗状況を確認したところ、岩美町側の１期工事については現在整備を進めており、平成２７年度完成予定とのことでした。

また、国府町側の２期工事については、平成２７年度に測量設計および用地買収を実施予定であり、平成２８年度に工事着手する予定とのことで、平成３０年代半ばの完成を目指していきたいとのことでした。早期完成に向けて地元の皆様においては、用地買収のご協力をお願いします。

本市としても、事業の早期完成に向けて従来から県に対し要望を行っており、引き続き要望を行ってまいります。

イ）岩美町塩谷地内ならびに岩美町白地地内の国道９号と県道との交差部への「大型車

通行不可」の看板設置について

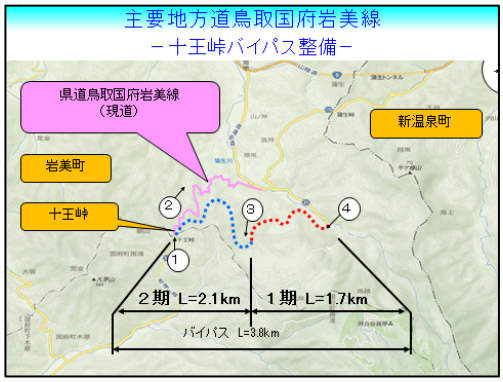
県道管理者である鳥取県に確認したところ、岩美町塩谷地内の国道９号と主要地方道鳥取国府岩美線の交差部は主要地方道であり、兵庫方面から国府町への近道としてカーナビゲーションシステムを頼りに進入する可能性も考えられること、また、十王峠区間においては実際に大型車の通行が不能であることから、看板設置を検討したいとのことでした。

また、岩美町白地地内の国道９号と県道院内馬場線の交差点については、県道院内馬場線は、道に不慣れな大型車が進入することはほとんど無いと考えられること、またダンプ程度の大型車であれば通行可能なことから、現時点で看板設置までは考えていないとのことでした。

本市としましては、山陰近畿自動車道の整備が進んでいく中で、今後兵庫方面からの通行量も増加すると考えられ、国府地域への周遊ルートの確保は重要と考えており、引き続き鳥取県に対し要望を行ってまいります。

（都市整備部次長）

主要地方道鳥取国府岩美線の十王峠付近は、岩美八東線にも増して曲がりくねっており、幅員も狭くて大型車が通れるような道路ではないということで、鳥取県がバイパス整備に取り組んでおられます。岩美町側の１期工事は平成２７年度の完成予定で、国府町側の２期工事は平成２７年度に測量設計に着手し用地買収等を行って、平成２８年度には工事着手する予定とのことです。




岩美町塩谷地内と岩美町白地地内の、国道９号線と県道との交差点については、国道９号線を兵庫県側から鳥取方面に向かう際にカーナビゲーションシステムを頼りに来られて、狭くて通れないような道に進入してしまい、かなり奥まで進んでから引き返すといったことが、時々発生しているようです。道路管理者である鳥取県によると、鳥取国府岩美線は一般国道よりも格の大きな主要地方道であり、車がカーナビゲーションシステム等の案内で進入する可能性も想定されること、また、十王峠区間は実際に大型車が通行できないことから、看板の設置を検討していきたいと回答をいただいています。ただし、県道院内馬場線については、一般の車両が積極的にこの道に向かってくる可能性は低いため、整備についてはもう少し様子を見たいとのことです。

③市道雨滝1号線の改良と雨滝駐車場整備

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

市道雨滝１号線では、工事施工時においても観光バス等の通行を確保できる区間から順次整備を行ってきました。しかし、今後整備を行う区間では、工事の際の交通確保が困難な箇所が多く、事業の進捗を図るためには全面通行止めを伴う交通規制が必要となります

ので、地元等のご理解とご協力をお願いします。

【経済観光部】

雨滝駐車場の段差解消と全面舗装化につきましては、道路整備事業とあわせて検討してまいります。

（都市整備部次長）

市道雨滝１号線の雨滝までの区間の全体の延長は、約１．７ｋｍです。平成２７年１１月には１００ｍの区間について工事発注を予定しており、これが完了すれば延長の約７割の工事が完了します。

この市道は雨滝までの唯一のルートであるため、観光の最盛期である６月から１０月にかけては、車のすれ違いが難しく通行止め等も難しいということで、通常の工事の際にも観光シーズンが終わった１１月頃に工事をしています。そのため、これまでは、多少広い道や迂回路が確保できる所から年次的、優先的に整備を進めてきました。

平成２７年度の施工区間も、ほぼ、現在の道路等を利用しながらの工事が可能だと考えていますが、来年度以降の３区間、延長約５４０ｍについては、現在の道路を通行していただきながら工事することが難しくなる見通しです。

また、これまでは観光シーズンを避けて工事を施工するよう頑張ってきましたが、来年度以降は、多少なりとも観光シーズン中の工事も行わざるを得ないと考えています。その場合は、地元の皆様や観光事業関係者の皆さんとあらかじめ協議させていただき、工期や工法を検討して進めていきたいと思います。

また、以前、駐車場が真砂土のために、雨で表面が流れるというご意見をいただいていますので、平成２８年度以降の道路整備に併せて検討したいと考えています。

（深澤市長）

道路整備については、なかなか進展しないところもありますが、我々も、できる限り整備を進めていきたいという思いです。冬場を避けて観光シーズンに工事しなければならないことが、工事がなかなか進まないネックになっているような状況もありますが、今後も工夫しながら進めていきたいと思います。

（地元意見）

何年にもわたり、同じ回答が続いています。雨滝集落がせっかく頑張って、「瀧の傘」という販売所兼休憩所をつくられたのに、駐車場があの状態です。

十王峠についても、県も過去には、平成３０年度か３１年度には完成すると言っていました。しかし、これから詳細設計をして工事発注では、私が生きているうちには通れませんね、と先日県の局長にも伝えました。

兵庫方面から来られる観光客や、鳥取から来て岩美方面に抜ける観光客を少しでも確保したいということで、観光客に来てもらえる方策を皆で考えようと今日の地域課題に挙げています。来てはみたがあの道路はなんだと、来られた観光客が不便を感じないようにしてほしいという気持ちです。

（都市整備部次長）

この岩美道路や道路のネットワークの整備も鋭意進んでいます。兵庫方面からの誘客も今後ますます増加するだろうということで、この地域への周遊ルートが重要だと考えています。そういった趣旨も踏まえ、今後も鳥取県に対して継続して要望したいと思います。

**７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）**

（地元意見）

新しいパンフレットで中核市についての説明がされ、市報にも「中核市お知らせコーナー」がありますが、もう少し内容を詳しくして全戸配布するなど、しつこく説明した方がよいと思います。中核市移行は必要なことなので進めてほしいが、なぜ中核市が必要なのか市民が納得しなくてはいけないので、市民に徹底してください。

（深澤市長）

私もその通りだと思います。そのため、パンフレットを作成したり、小さい記事ながら毎号市報に掲載しています。内容を詳しくしたい気持ちはありますが、あまりに文字数が多いと読んでいただけないという面もあり、今は、比較的小さな分量の囲み記事で掲載しています。

少人数でもお集まりいただけるようであれば、ご要望により、皆様の所に出向いて詳しくご説明させていただいています。また、いなばぴょんぴょんネットで放映した中核市の説明を、市のホームページでもご覧いただけます。今後もさまざまな情報媒体を用いて、中核市の必要性についてしっかり周知を図っていきたいと思います。

（地元意見）

地元に帰って改めて見ると、雨滝の開発は他の所の開発レベルと全然違います。雨滝の人間でも、雨滝では遊べません。岩美町のいこいの里と雨滝を比較しても全然違います。

湯梨浜町の今滝には滝床料理などの看板もあり、滝には手すりや見晴らし台があって遊具もあります。智頭町の芦津渓谷には「森林セラピー」と書かれ、水が出ていないのに「天空の滝」などと言っています。そういった所の開発にすごく違和感を感じます。鳥取市浜坂には遊水池があります。災害対策というのは分かります。グラウンドや遊園地、トイレの設置まではよいが、バードウォッチングなどをしたりしています。遊水地にそんなことは必要ないから、雨滝にしてほしいです。遊水地に何億円もかけなければいけないのですか。雨滝がそんなに悪いですか。

雨滝には４０ｍの滝や傘踊りがあり良い所だと言って、県外から観光に来られます。京都府や香川県などからも来られていました。しかし、道が分かりづらく道路が悪いことは皆、知っています。雨滝は蹴つまずいて転びそうな所なのです。地域課題の回答に、平成

２８年度に駐車場を云々とありますが、駐車場はイノシシが掘るし、雨滝には熊が出ますよ。大型バスも通れません。身内が来た時に、せっかくだから雨滝で遊んで行けと言っても、誰があそこで遊ぶのですか。草ぼうぼうで歩けば蹴つまずいて転び、下手をするとマムシやイノシシが出るような所で、かわいい子どもを遊ばせることはできないでしょう。滝開きも、土砂崩れしたような所で滝開きをするということで、私は信じられませんでした。「山に行きましょう。目印は土砂崩れした所です。」というのも本当に信じられません。

９月２９日に鳥取県庁で、鳥取県地震防災調査研究委員会が開催され、雨滝－釜戸断層で地震があれば５０人死ぬなどの話がありました。雨滝－釜戸断層がどこにあるのかなど詳しくは知らないが、雨滝という単語が出てきたので、そういった意識もなければいけないのではないかと思います。道路がどうのこうのと言うより現地に行って確認し、それから道路が開発されていくべきです。考える順番が違っているのではないかと思います。

殿ダムが完成しました。殿ダムには遊園地があるから、雨滝も整備したら同様につくればよいではないかということになります。子どもがいないのに設置しませんよと言うかもしれないが、今の遊具は違います。高齢者向けの健康遊具を知っているでしょう。知っているのに設置しないではないですか。そういうことを考えてくれなければいけません。今は子どもが遊具で遊ぶ時代ではないのです。

昔は、グリーンツーリズムがありました。私は、雨滝はほっておいてもそのうち開発されて「すごくなったな」というようなことになるのだろうと思っていたが、この状態です。少しずつ整備していると言うが、少しずつでは誰も来ません。二者択一であれば、雨滝をこれ以上開発しないでください。「本当に田舎にある秘境の滝」としてもらってもよいです。

今はお金を落とさなければいけない時期であり、国もこのご時世なので、ＧＤＰ、国内総生産、ＣＣＲＣと言ったりしています。特に最近は、世界ジオパークの件もあります。しかし、開発しないのならもう看板を取ってしまえばよいではないですか。今なら元の田舎に返れます。開発しないならしない、するなら何百億円かかってもしてくださいよ。

（深澤市長）

雨滝は日本の滝百選にも選ばれた非常にすばらしい滝であり、我々も従来から多くの皆様にお越しいただけるよう情報発信等もしているところです。雨滝、河合谷高原も山陰海岸ジオパークのジオスポットですので、そういったことも大いに発信しながら、皆様と一緒に、前向きに取り組みを進めていきたいと思います。

遊具を設置することについては、一つのご意見として伺っておきたいと思います。

（地元意見）

鳥取には傘踊りが多くあります。ここら辺りでは雨滝にあります。雨滝部落では納涼祭で傘踊りを踊るので、若干思い入れがあります。

県外に住んでいて、県外の祭を見てきました。鳥取に帰り、今年改めてしゃんしゃん祭を見たが、「これは鳥取の傘踊りか。傘さえ持てば鳥取の傘踊りなのか。」と、ふと疑問に思いました。昨年はギネスに挑戦するという目的があり、とにかく誰彼かまわず傘を持ったのだと思うが、今年見ると、県外の祭の衣装を着て踊っているように見えたのです。

衣装の基準や規格はあるのですか。改めて鳥取らしさを味わいたいと思い、浴衣を着て

祭に参加したが、男性で浴衣を着ている人はほとんどいませんでした。

（深澤市長）
基準はありません。衣装も振りつけもそれぞれの連で自由に工夫して、祭を盛り上げていただいています。鳥取らしさでいえば、国府町にも素晴らしい傘踊りが伝統芸能として継承されており、多くの皆様から、勇壮で華麗で非常に素晴らしい踊りだと評価いただいています。また、年に一度の「因幡の傘踊りの祭典」は、万葉歴史館で毎回多くの皆様にご参加いただいています。
因幡地方には、国府町だけでなく横枕や河原町にも傘踊りが伝承されており、それはそれで素晴らしいですし、多くの皆様が参加されて衣装や踊りに工夫を凝らして祭を盛り上げる、それもまた鳥取らしさの一つではないかと私は思います。いろいろな考え方や受けとめ方もあると思いますが、来年度以降も盛り上げていただければと思っています。

（地元意見）
以前、大茅地区で、鳥取南地域で行っているバスの再編に関する説明会がありました。担当部署がコースや時間などを設定していると思いますが、当初の説明の際に、場合によっては村の中まで行くし、コースの変更もすると話がありました。例え話で、雨滝でも滝までででも行きます、という話もありました。
市にそういう気持ちがあるなら、早い時期にコースの具体的な案や要望を聞いてもらえる機会があってもよいと思うので、最後の詰めをする前に時間的な余裕を持ってアンケート等をとってほしいです。

（深澤市長）
南地区に続き、この東地域でもバスの実証事業を進めていきたいと思います。進めるにあたっては、地域の皆様のお考えやご意見をしっかりと伺って実施していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（地元意見）
鳥取市で第１、第２の豪雪地帯はどの辺りだと思いますか。

（深澤市長）
第１、第２を私がしっかり理解できているかどうか分かりませんが、国府町も非常に雪の多い地域だと思っていますし、佐治町栃原など、佐治町の奥も非常に雪が多い所があると思います。その年によってどちらが多いかは違うと思いますが、いずれにしても、国府町は非常に雪が多いと私はいつも思っています。

（地元意見）
一番多いのはこの大茅地区です。冬季に時々佐治町に行きますが、佐治は降る時と降らない時があり、そんなには降りません。一番多いのは大茅地区で２番目が上地地区、どちらも国府町です。

除雪は市がせず県に要請していますが、中河原の辺りに除雪車を置いて上の方まで除雪してもらえるよう、県に厳しく要望してもらえませんか。県がすることだから知りませんと言わないでください。

（深澤市長）

県がするから知りませんとは言いません。ただ、県も計画的に全県域を手分けして一所懸命除雪しておられますので、機会を見て要望していきたいと思います。今後も、国と県、市が一緒になって、しっかり除雪していきたいと思います。

**８　市長あいさつ**

７時から８時１５分までの本当に限られた時間でしたが、熱心にご議論いただき、多くのご提言やご質問をいただきましたことに、心から感謝申し上げたいと思います。

２年に一度の開催で回数が少ないのですが、今後もいろいろな機会に、お気軽にご意見等をお寄せいただければ大変ありがたいと思います。また中核市等の取り組みについても、もう少し詳しく尋ねてみたい、あるいは意見を言いたいということがあれば、ご一報いただければと思います。

今、市町村は地方創生の取り組みに一所懸命に取り組んでいます。それぞれの地域の良いところや持ち味を最大限活かし、行政だけでなく地域の皆様、いろいろな分野の方と力を合わせて進める取り組みが、地方創生の取り組みだと思っています。私も、皆様と一緒に前を向いて、今後もしっかりと国府町、そして鳥取市の将来に向けたまちづくりを進めていきたいと思っていますので、よろしくお願い申し上げます。

本日の地域づくり懇談会にご参加いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。